

平成 21 年度「地域密着型金融推進計画」の進捗状況

全体的な進捗状況

1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化

昨年 10 月に中央支店ビル 1 階に移転した「おびしんふれあい相談室」は、平成 21 年 4 月から「応援コーディネーター」を 1 名増員して 5 名体制に充実して地域力連携拠点事業に取り組み、関係機関と連携を図りながら創業相談・各種経営相談・事業承継相談等に対応し、より多くのお客様の相談ニーズにお応えしています。

経営改善支援では、平成 21 年度は支援先として 151 社を選定して、経営改善計画の策定支援・経営アドバイスを実施するとともに、本部担当者が営業店を訪問し支援先への個別対応を行う等の営業店担当者の能力向上に向けた取組みも行っています。

また、昨年 12 月に施行された中小企業金融円滑化法に適切かつ積極的に対応するとともに、「中小企業再生支援協議会」等の各種機関との連携による事業再生支援への取組みをより積極的に進めていく方針です。

2. 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底

中小企業に適した資金供給を行うため、職員の目利き力および経営改善支援実務能力の一層の向上を図るべく研修の実施、各種セミナーへの職員派遣等を積極的に行っております。また、不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資への取組みでは、A B L 等の動産・債権譲渡担保融資を推進しており、動産担保研修を行い数多くの職員がスキルアップに努めております。具体的には日本動産鑑定との業務提携開始、全国肉牛事業協同組合の動産担保スキームを活用する等の融資手法の多様化を図っており、融資実績は 17 件・534 百万円となっています。

今後も職員の能力向上に努め、これまで以上にお客様の多様なニーズに適切に対応した資金供給手法の推進に取り組む方針です。

3. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

平成 21 年 4 月に地域経済振興部を新設し、地域経済の情報収集・分析をはじめ、地元十勝に関わる情報の受発信機能の強化、地域資源の活用や地域の課題解決に向けたコーディネータ機能の発揮に努めました。今後におきましても地域との有機的な連携を一段と強化して、フードビジネス重視の経済活性化、産業の振興に積極的に取り組む方針です。

また、金融教育活動の実践として、各種団体等に対するセミナー等を実施するとともに、中・高校生を中心としたインターンシップ受入れおよび金融関連授業への講師派遣等を行っています。(地域経済振興部の主な取組み実績は別紙のとおり)

4. 経営力の強化

総代ならびに会員の皆様の意見を経営計画や業務改善に反映させるべく、地区別総代協議会を開催し、会員アンケートを実施しています。

地区別総代協議会は、総代を通じて会員やお取引先の皆様の様々な意見をいただく貴重な意見交換の場となっています。会員アンケートは、総会員数の 1%に相当する 400 先を対象に実施し、6 月開催の通常総代会で結果報告を行い、意見等を経営に反映させております。今後も会員やお取引先の皆様から多くの意見をいただき、C S 経営の実践と強靱な経営体質の実現に向け取り組む方針です。

個別施策の進捗状況

項目	具体的取組策	実施内容
1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化		
(1) 創業・新事業支援		
創業ニーズへのサポート機能の一層の発揮	<ul style="list-style-type: none"> (1) 創業者支援制度の継続的取組み (2) 事業化支援評価委員会(目利き委員会)の活用 (3) しんきん地域活性ファンドの活用 (4) 北海道中小企業応援ファンドの活用 (5) 帯広畜産大学との連携強化 (6) 地域力連携拠点機能の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・おびしんふれあい相談室・営業店で創業融資実行 72 件、698 百万円 ・十勝事業化支援評価委員会に参加(3/17) ・「第 24 回ビジネスプラン発表会」(北海道中小企業総合支援センター)1 名参加(9/16) ・北海道中小企業応援ファンド申請 1 件(9/7) ・十勝地域知的財産情報交換会に 5 回出席(6/17、8/20、11/4、1/22、3/17) ・「おびひろ・とかち 創業・起業支援フェア(帯広市・北海道経済産業局主催)」支援策説明および個別相談 4 件(11/26) ・十勝地域女性起業家事例報告会(NPO 法人札幌ビズカフェ主催)1 名オブザーバー参加(10/29) ・「起業力アップ! 女性起業塾(北海道中小企業総合支援センター主催)1 名オブザーバー参加(12/10) <p>【年度目標】創業融資件数 50 件 【年度実績】 " 72 件</p>
(2) 経営改善支援		
経営相談ニーズへの積極的対応	<ul style="list-style-type: none"> (1) 補助事業等の公的制度等に関わる情報提供および申請支援の実施 (2) 財務書類の作成・後継者育成等に係る相談を含め、幅広い相談ニーズに対応 (3) 十勝版「産学官・金融連携システム」を活用した技術的課題への対応 (4) フードビジネスサポートネットワーク会議の継続開催によるフードビジネス事業者支援体制および官学との連携強化 (5) 各種ビジネスマッチングイベントへの出展斡旋 (6) 地域力連携拠点事業としてのビジネスマッチングの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・「各種助成金活用セミナー」(北海道労働局)2 名参加 ・中小機構農商工連携プロジェクトマネージャーとの意見交換(4/23) ・十勝地域中小企業支援協議会 3 回開催(6/5、10/28、3/9) ・十勝・帯広地域農商工連携意見交換会(6/18) ・帯広地域産学官連携推進会議幹事会 2 回参加(10/5、2/24) ・「農商工連携ファンド助成事業等説明会」(北海道商工会連合会)1 名参加 ・「農商工等連携事例及び支援施策セミナー」参加(北海道中小企業団体中央会) ・地域力連携拠点事業「フードビジネスサポートネットワーク会議」を日本政策金融公庫と共催(146 名参加) ・日本政策金融公庫農林水産事業交流会「フードネット in 北海道」参加 ・マッチングフェア in とかち(帯広商工会議所主催)1 名参加 ・地域力連携拠点事業「北洋銀行ものづくりテクノフェア」への出展者 1 先紹介 ・日本政策金融公庫農林水産事業交流会「フードネット in 北海道」参加 ・十勝帯広地域ブランド化推進研究会 4 回参加(11/19、12/22、1/28、3/18) ・農業経営アドバイザーローカルミーティング(4 名参加)

項 目	具体的取組策	実 施 内 容												
取引先企業の経営改善支援	<ul style="list-style-type: none"> (1) 営業店担当者の経営改善支援能力向上に係る研修を実施および営業店訪問による個別指導 (2) 経営改善支援先の経営改善計画策定を支援し、その後のモニタリングおよび経営改善指導の実施 (3) 正常先から要注意先にランクダウンした先に対する早期の経営改善指導の取組み (4) ランクアップ事例（経営改善成功事例）の公表 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営改善支援の選定に係る営業店訪問を全店実施、経営改善支援先 151 社（内訳：継続先 118 社、新規先 33 社）を選定（選定率 10%） ・経営改善支援新規選定先 33 社全先の経営改善計画を策定 ・計画作成、中間管理、経営指導のための顧客面談および営業店との打合せを実施 ・当庫ホームページにて 20 年度「ランクアップ事例」を公表(6/9) <p>【年度目標】</p> <table border="0"> <tr> <td>経営改善支援先選定率</td> <td>10%以上</td> </tr> <tr> <td>経営改善計画策定率</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>ランクアップ率</td> <td>10%以上</td> </tr> </table> <p>【年度実績】</p> <table border="0"> <tr> <td>経営改善支援先選定率</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>経営改善計画策定率</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>ランクアップ率</td> <td>8.6%</td> </tr> </table>	経営改善支援先選定率	10%以上	経営改善計画策定率	100%	ランクアップ率	10%以上	経営改善支援先選定率	10%	経営改善計画策定率	100%	ランクアップ率	8.6%
経営改善支援先選定率	10%以上													
経営改善計画策定率	100%													
ランクアップ率	10%以上													
経営改善支援先選定率	10%													
経営改善計画策定率	100%													
ランクアップ率	8.6%													
(3) 事業再生														
取引先企業の再生支援に係る関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> (1) 十勝圏地域産業支援センターや帯広商工会議所との協議会の開催 (2) 北海道の中小企業早期再生支援システムや中小企業再生支援協議会の利活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域力連携拠点（当庫）主催の十勝地域中小企業支援連絡協議会に参加し、経営支援についての意見交換を実施（6/5、10/28、3/9） ・北海道中小企業再生支援協議会主催の事業再生サポートセミナーに参加（11/20） ・中小企業再生支援協議会の個別相談会に参加。個別相談案件はなかったものの中小企業再生支援協議会の活動状況、第二会社方式による事業再生についての意見交換を実施（6/15） ・日本公庫（中小企業事業）と挑戦支援資本強化特例制度利用に向けた打合せ（7/31、8/5） ・帯広商工会議所主催の農商工連携マッチングフェアに参加（11/18） ・企業再生支援機構の説明会に参加（3/25） 												
(4) 事業承継														
事業承継相談ニーズへの積極的対応	<ul style="list-style-type: none"> (1) 「おびしんふれあい相談室」にて、自社株対策から M & A に至るまで、事業承継に関する相談への積極的取組み (2) 顧客向けセミナーと個別相談会の開催 (3) 事業承継アドバイザーの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・「中小企業の事業承継対策」セミナー（帯広地方法人会）2 名参加 ・事業承継セミナー・個別相談会（当庫主催）を開催、セミナー受講者 28 名、個別相談 3 社(9/10) ・「事業承継支援施策説明会 in 帯広 2010」開催（27 名参加 個別相談 3 組） ・「事業承継アドバイザー試験」（金融検定協会主催）実施（当庫受験者 4 名全員合格） 												

項 目	具体的取組策	実 施 内 容
2. 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底		
(1) 融資判断力・目利き力の向上	<ul style="list-style-type: none"> (1) 目利き力の向上を目的とした研修の実施・派遣 (2) 融資判断力、経営改善支援実務能力の向上を目的とした研修の実施・派遣 (3) 中小企業診断士の養成 	<ul style="list-style-type: none"> ・「目利き力実践講座(全信協・北信協主催)」に4名派遣 ・目利き力および経営改善支援実務能力向上を目的に「審査部研修」を実施(各店融資担当者等33名受講) ・「企業再生支援講座(北海道信用金庫協会主催)」に2名派遣 ・「企業再生支援実践講座(全国信用金庫協会主催)」に2名派遣 ・「貸出審査能力養成講座(北海道信用金庫協会主催)」に2名派遣 ・中小企業診断士の養成～8月実施の1次試験に2名受験のうち1名が合格、平成22年度中小企業診断士第1次試験に向け、1名を資格学校主催の通学対策講座(札幌)に派遣
(2) 不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資の推進	<ul style="list-style-type: none"> (1) 「目利き機能」の向上のための研修の実施 (2) 動産・債権譲渡担保融資、特にABLの取組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜塾「動産担保研修」を実施(役職員等のべ91名参加) ・ツールバグループホールディングス(株)主催ABLセミナー参加(2名) ・NPO法人 日本動産鑑定と業務提携開始 ・社)金融財政事情研究会主催ABL関連のセミナー参加(2名) ・石巻信用金庫よりABLに関する視察受け入れ(2名) ・社)中央畜産会より畜産における動産担保に関する視察受け入れ(4名) ・ABL等の動産・債権譲渡担保融資実行17件 534百万円
3. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献		
(1) 年金・悪質詐欺犯罪・多重債務予防等の情報提供機能の発揮	<ul style="list-style-type: none"> (1) 老人クラブ・町内会・市町村等、地域住民を対象とした年金・振り込み詐欺・多重債務予防等に関するセミナー開催 (2) 「ふれあい通信」「年金関連情報」等の発行による金庫職員の相談能力の向上 (3) 「おびしんふれあい相談室」での多重債務顧客への親身かつ適切な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・年金問題・振り込み詐欺等のセミナーを9回開催 ・地域住民への情報提供に資する職員向け年金関連情報22回発行
(2) 金融教育活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> (1) 小中学生を対象とした金融経済体験学習の実施 (2) 高校生を対象としたジュニア・インターンシップを実施し、併せて多重債務問題防止に向けた啓蒙の実施 (3) 金融に関する学校授業に対し、出前講師として職員の派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ・大樹高校「企業見学(本部)」2名受入(6/5) ・帯広工業高校「中央支店省エネルギー設備見学」40名受入(9/7) ・広尾中学校職場体験学習2名受入(11/19) ・糠内中学校インターンシップ1名受入(12/9～10) ・帯広南商業高校インターンシップ6名受入(2/2) ・帯広南商業高校「ビジネス基礎」授業へ講師派遣(2/9)

項 目	具体的取組策	実 施 内 容
4．経営力の強化		
(1) ディスクロージャーの充実	(1) ディスクロージャー誌の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスクロージャー基準を作成し、2009年版ディスクロージャー誌製作。カラーユニバーサルデザインに配慮した見易い誌面に変更 ・2009年版ディスクロージャー誌の縦覧開始(7/30) ・半期ディスクロージャー誌の縦覧開始(11/27) ・2010年度版ディスクロージャー誌の誌面づくり、開示内容等の検討に着手
(2) 総代意見・会員アンケートの経営への反映	(1) 地区別総代協議会の開催による総代意見集約結果の金庫業務改善への反映 (2) 会員アンケートの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・地区別総代協議会を10/19～11/18に都合8回(市外・市内各4回)開催、各総代と意見交換(出席総代数88名) ・地区別総代協議会での意見・要望について、改善可能のものから順次対応 ・第6回会員アンケートで回答のあった317件(回答率79%)の調査結果を第95期通常総代会に報告するとともに、全店の窓口に備え置き希望者に配付 ・寄せられた意見・要望については、優先度合、コスト等を検討し、可能なものから改善に着手 ・第7回会員アンケート調査の実施、各店長が会員400名に対してアンケート用紙を配付

地域経済振興部の主な取組み実績

1. 情報の受発信機能の発揮

「管内経済指標概況」、「地域企業景気動向調査」、「特別調査」等

調査・分析・公表レポートの充実を図ったほか、これら調査結果を掲載している季刊誌「NEXT WAVE」をはじめ、各種公表資料を講演・講話等で積極的に活用しました。

帯広畜産大学との共同研究

20年度の「エコフィールド産業クラスターの形成と課題に関する研究」については、21年10月にオープンした中央支店ビルセミナールームにおいて成果発表会を実施(22年3月1日、来場者数は約80名)。

21年度は、「十勝型地産地消と地域密着型フードシステムの展開に関する研究」をテーマに据え、前年度と同様に当金庫営業店のネットワークを活用した実地調査等も行いました。

「おびしん地域経営塾」

第8期おびしん地域経営塾を閉講(21年4月16日)。卒業生は34名。

第9期おびしん地域経営塾を開講(7月30日)。シンクタンク・ソフィアバンク藤沢久美副代表を招き、記念講演を実施。その他講師の選定に当たっては、本年度も小樽商科大学ビジネス創造センターの協力を得たほか、当金庫に縁の深い管内の経営者や専門家にも依頼。当期の卒業生32名を加え、卒業生数は延べ299名となりました。

「とかち経済振興フォーラム」

帯広市、帯広市中小企業研修連携会議との3者共催により、「十勝の魅力は何か?誰にどう売り込むか?仕掛け人たちの叡智に学ぶ」と題した「とかち経済振興フォーラム」を開催(22年2月23日、来場者数は約250名)。パネルディスカッションには、東武百貨店・内田勝規エグゼクティブバイヤー(当時)のほか、ノースプロダクション・近江正隆代表取締役、グロッシー・北村貴代表取締役、幕別町ふるさと味覚工房・近藤明美インストラクターが登壇。これら4氏との交流深耕により、様々な効果が生まれ始めております。

「総代向け夏季連続セミナー」

総代を対象に、中国事情と日本・十勝の経済情勢の各分野の講師を招き、21年8月に2度の講演会を実施（8月6日、24日、参加された総代等はそれぞれ52名、57名）。

三島信用金庫との業務連携・人事交流

三島信金経営サポート室・川口勝民主任調査役を当部で3か月強受入れ（21年7月27日～10月30日）。

三島信金・稲田精治理事長を通じ、沼津ワイズメンズクラブより十勝農産物（馬鈴薯、カボチャ、タマネギ）の大口購入希望をいただき、農家等の納入先をコーディネート（10月初）。

農業関係者等との連携強化

当金庫役職員の農業関連知識の習得に資するよう、部店長向け農業関連施設見学会の第一弾として、「日本甜菜製糖芽室製糖所」の見学会を実施（21年11月17日）。

農業関係者との定期的な情報・意見交換会を開始（6月3日）。

十勝管内JA役員研修会（参加者約400名）において、北海道商工会議所連合会・高向巖会頭とともに、当部・秋元部長が講師（当金庫増田正二理事長の代理）として登壇（22年3月9日）。

各種機関・団体の委員等として意見・助言を表明、講演・執筆活動、意見交換等も幅広く実施

帯広市産業振興会議委員等として活動。

都内における全信協・地域活性化推進セミナー（21年8月3日・4日）のほか、仙台市におけるシンポジウム、管内の機関・団体の総会・会合や市民大学講座等で講師・パネリストとして登壇。

帯広工業団地協同組合広報誌「緑のだんち」（10月発行）巻頭に執筆。

中学・高校生のインターンシップ受入れによる金融経済教育の実施（6月、9月、12月、22年2月 併せて出前授業も実施）。

管内・道内・国内外の産業・研究施設や企業等の視察・ヒアリングを行った一方、来勝した道内外の経済団体役員や都内の大学教員・学生等と面談し、意見交換を行いました。

2. リエゾン・コーディネータ機能の発揮

本格的なビジネスマッチング事業の実施

三島信金、三島商工会議所の主催により、21年11月20日に開催された、「ビジネスマッチング商談会2009 in みしま」に特別協賛。十勝・帯広からは、17の機関・団体・事業者が参加。

「FOODEX JAPAN 2010」(22年3月2日～5日)への出展支援を継続。十勝管内から15機関・団体・事業者が「北海道十勝物産館」として出展。当金庫は、関係機関等への提言、助言のほか、当日、現地では十勝のPR支援等も行った。なお、会期4日間の初日には、三島信金の職員とその取引先の役職員51名が三島から大型バス2台を連ねて来場し、両地域事業者等が交流しました。

なお、「FOODEX JAPAN 2010」への出展支援や「とかち経済振興フォーラム」の開催を通じ、十勝管内の事業者等が国内外のバイヤーとの新たな接点等を獲得しているほか、オンラインショッピングの活用等も検討し始めております。

21年10月末発行の「NEXT WAVE Vol.81」(発行部数2,000部)においては、三島信金・川口勝民主任調査役より伊豆地方の地域資源を紹介していただいたほか、十勝管内各市町村が選りすぐった「地域資源20選」の連載を開始しました(当年度は鹿追町、新得町を掲載)。

「リエゾン・コーディネータ」とは「橋渡し役・調整役」の意味で、ここでは、例えば特産品、観光資源、人材や技術など十勝が誇るさまざまな地域資源について、管内外からのニーズに応えられるようマッチングなどの支援を行う人や組織のことを言います。